

明倫短期大学研究会講演抄録

ければならないと考えられる。

骨髄移植前の根管治療

金子 潤 助教授 (歯科衛生士学科)

骨髄移植前には、感染源となりうる口腔領域病変の治療が必要であるが、どの程度の病変を処置すべきかについては明確でない。最近では、従来拔牙の対象となっていた無症状根尖病巣菌を未処置のまま骨髄移植を行った報告も出てきている。今後さらなる研究の発展が望まれるが、未処置群の設定は人体実験的要素を含むため、骨髄移植の緊急性の高い症例を集めて調査を行うしかないであろう。

今まで拔牙していた歯を保存することができるようになれば、患者さんにとって大きな利益となることは間違いない。

第56回：2001年4月26日 (木)

歯の進化から哺乳類の進化を考える

小黑 章 教授 (歯科衛生士学科)

Erik Stokstad: Tooth Theory Revises History of Mammals. SCIENCE, 291: 26, 2001.を「歯の進化から哺乳類の進化を考える」と題して、紹介した。哺乳類の歯の進化のうち最も重要なものはtribosphenic molar であると考えられ、それは南半球と北半球において、それぞれ独自の進化を遂げ、そこから、南半球の単孔類ほかの原始的哺乳類は、北半球の有袋類と有胎盤哺乳類と共通起源を持つがそれぞれに独立して進化した系統として位置づけられるという仮説が考えられる。

歯科技工で発生する粉塵について

五十嵐 雅子 講師 (歯科技工士学科)

歯科技工士は多種多様の材料と器具を使用し、その材料から多量の粉塵が発生する作業環境のなかで、健康に不安を抱きながら研磨作業を頻繁に行っている。長年にわたり歯科技工に携わってきた患者の肺炎患が報告され、歯科技工という職業的な環境と疾患の関連性が指摘されている。生体に影響を与えている因子となる粉塵粒子の大きさ、粒子の化学性状、濃度等についての研究を紹介し、粉塵対策とその重要性について述べた。

第57回：2001年5月10日 (木)

医療用具の適正使用に関する研究

佐藤 温重 教授 (歯科技工士学科)

医療用具の中には使用時に本来の機能が十分発揮できず不具合を生ずるものがある。不具合を未然に防止するためには、1) 不具合要因と想定される化学物質の溶出量 (暴露量) の計測、2) 使用上の注意に関する添付文書の改善、3) 安全性情報管理体制の整備、などが有効である。歯科臨床で使用されているグローブおよび義歯裏装材からのフタル酸エステル溶出量をもとにしたリスク評価と適正使用について述べた。(本研究は平成12年度厚生科学研究費補助金の助成によって行われた。)

第58回：2001年5月24日 (木)

歯科衛生士学科2年生の食事調査の現状

平澤 明美 講師 (歯科衛生士学科)

平成12年度歯科衛生士学科2年生の「栄養学・栄養指導・演習」授業の内容を報告し、授業で実施している食事調査の結果を評価した。多くの問題点があったが、以下の3項目が明確になった。(1) 献立の材料がわからない。(2) 材料の目分量から正味量が換算できない。(3) 正味量からカロリー計算が出来ない。今後の課題として、調査の事前準備で3項目についての現状よりもっと具体的な資料・解説が必要と思われる。

歯科技工におけるCAEに関する一考察 ～3D・CADと数値解析を用いた 最適設計シミュレーション～

植木 一範 講師 (歯科技工士学科)

CAE (Computer Aided Engineering) は、開発から製造および販売・サービスに至までの生産管理において、工業界では広く一般的に利用されている。現在まで歯科界、特に歯科技工においては、技工物を数値データとしてコンピューター上で処理する事が困難であるとされてきた。しかし、今後はユーザー (患者) の製品に対する品質志向は高くなると予測されており、生産者のQC (Quality Control) が一層重要視される時代が到来する。そこで今回、CAEを歯科技工に適用する一考察を行ったので報告した。